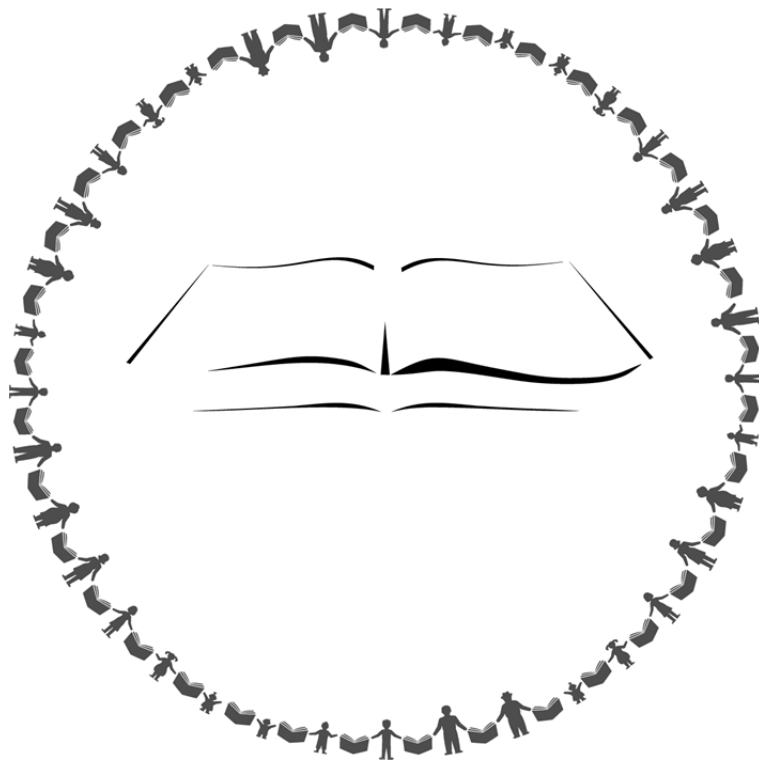


本が人をつなぐまち ヨコハマ

—読書によるコミュニティづくりの可能性について—

提 言



平成 28 年 10 月

第 31 期社会教育委員会議

目 次

1	はじめに	・・・	1
2	現代社会における読書活動の意義	・・・	5
3	読書活動推進のための取組	・・・	6
4	「読む・知る」から「語る・つながる」へ	・・・	8
5	おわりに	・・・	9
	民間における新たな読書活動事例	・・・	10
	地域における読書活動事例（平成 27 年度）	・・・	15
	平成 27 年度横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム記録	・・・	22
	《資 料》		
	第 31 期横浜市社会教育委員会議審議経過	・・・	36
	社会教育法（抜粋）	・・・	37
	横浜市社会教育委員条例	・・・	38
	横浜市社会教育委員会議規則	・・・	39
	第 31 期横浜市社会教育委員名簿	・・・	40

1 はじめに

(1) 生涯学習時代の読書活動

生涯学習の時代と言われて久しい。もともと、生涯学習という理念は、「人間は学び続けることによってこそ自らの人生を豊かにしてゆくことができる」という考え方を基本にしており、そこでは、学校での勉強や職場での研修はもちろんのこと、テレビやスマートフォンで情報収集することや、近所の人たちと地域の課題について話し合うこと、友人とボランティア活動をするなども含めて、「日常生活の様々な場面で学ぶ」ことが大切とされている。また、自らが関心のあるテーマに沿って講座を連続して受講したり、大学院に社会人入学して資格を取得したり、地域のグループ・サークル活動に参加したりするなど、「生涯にわたって継続して学ぶ」ことも重要であるとされている。

読書は、情報の取得や感動の体験を通じて個人の成長や発達に重要な役割を果たすとともに、子どものときから、大人になるまで、さらには高齢になってからも、自由な時間に、場所をとらないで、それほど経済的な負担もなく、学び続けることを可能にするものである。この点からすれば、読書は、まさに生涯学習の時代に最もふさわしい「学びのツール」といえよう。

近年、グローバル化が進展しつつある中で、文化の違いを超えて、様々な人々や機関・団体がつながることの重要性が指摘されている。本市においても、都市化が進行する中で、地域におけるつながりが希薄化しつつあることは、大きな社会的課題と言えるだろう。

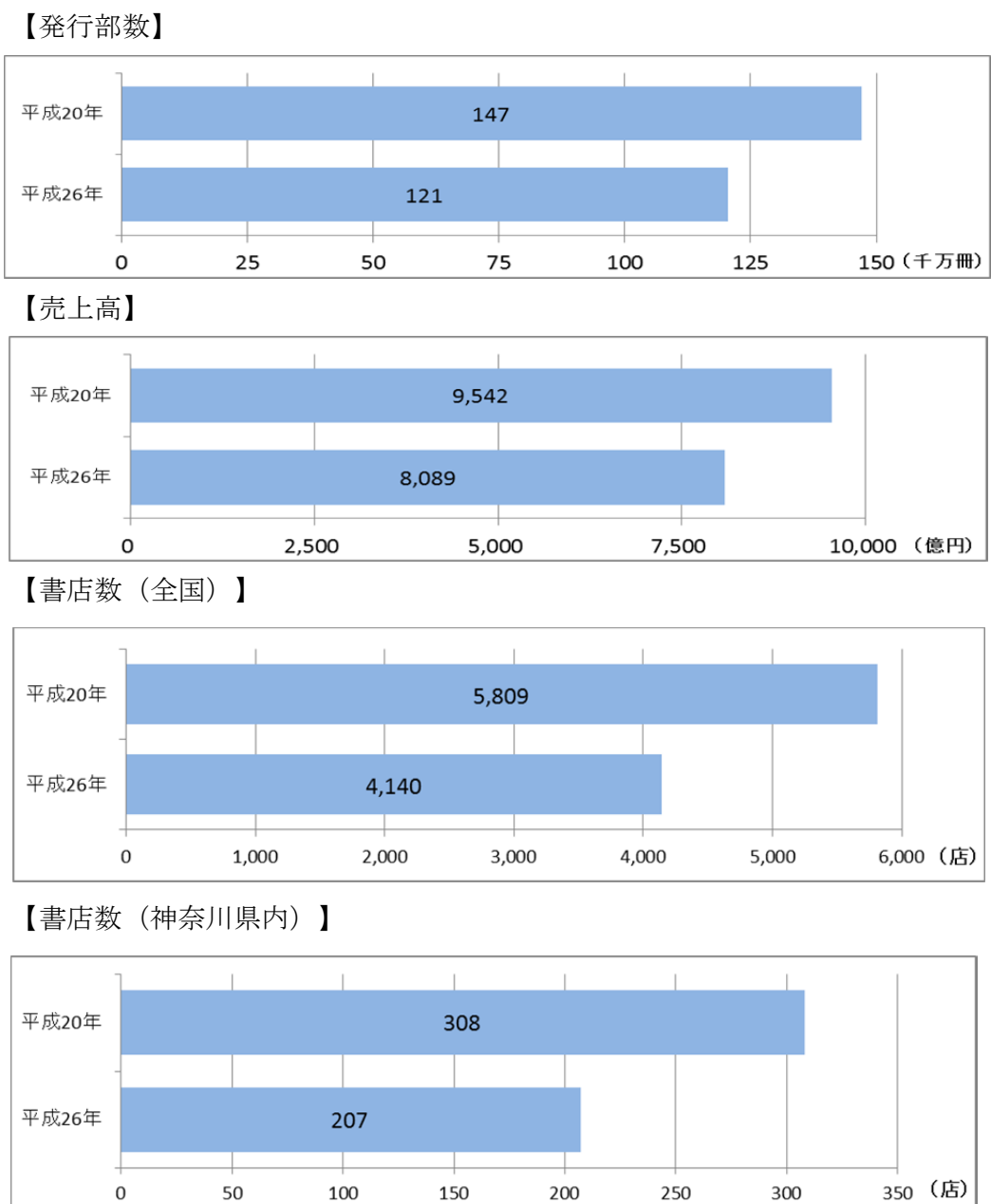
こうした背景の下で、「他者との共生を学ぶ」（『学習：秘められた宝』ユネスコ 21世紀教育国際委員会/1996年）という学びのスタイルがクローズアップされるようになってきている。言うなれば、「学び」を自らの自己実現や楽しみの追求だけではなく、地域づくり・社会づくりにおいても大きな役割を果たすものとしていくことが期待されるようになってきているのである。

先に述べたように、読書は、生涯学習の時代にふさわしい「学びのツール」であり、このことを踏まえて、読書活動を地域づくり・社会づくりの観点から捉えなおす必要があるだろう。すなわち、地域に「つながり」と「文化」を創出していく上で意義のある活動の在り方に焦点をあてて、読書活動について考察することが必要である。その上で、市民との協働のもと、政策として読書活動を推進していくことが望まれているのである。

(2) 「読書」をめぐる動向

近年、様々な情報メディアが開発され普及していることや人々の生活の多忙化など、急激に社会環境が変化していく中で、人々の「読書離れ」が指摘されるようになった。読書に関する全国的な調査においては、個人の急激な読書離れを立証できるようなものは確認できなかったが、例えば書籍の出版に関して言うと、平成20年と平成26年との全国的な比較では発行部数、売上高及び書店数のいずれについても大幅に減少していることが読み取れる（図表1）。

図表1 発行部数、売上高、書店数の推移



出典：出版ニュース社「出版年鑑」2009年、2015年

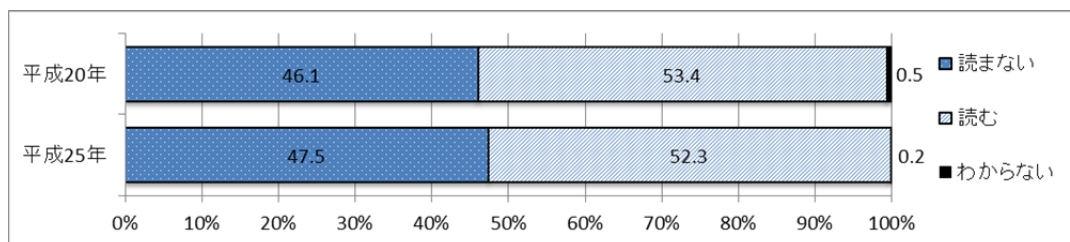
また、文化庁が16歳以上の男女3,000人を対象に実施した調査によれば、5年前と比べ読書量が微減している傾向にある（図表2）。

図表2 「国語に関する世論調査」

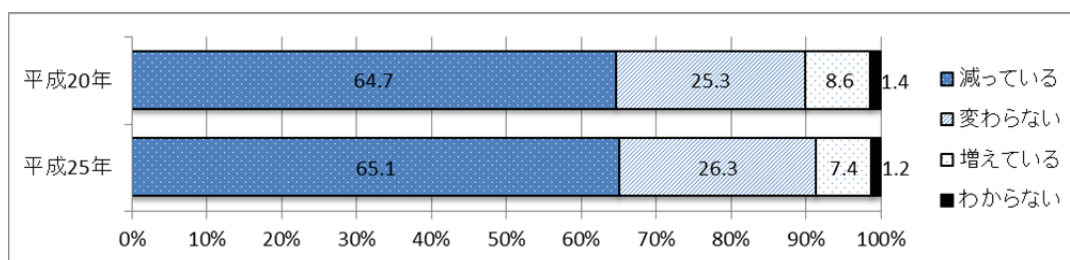
○あなたは現在、1か月に大体何冊くらい本を読んでいますか。この中から一つ選んでください。電子書籍を含みますが、雑誌や漫画は除きます。

※下線部は平成25年度調査で追加。

	回答	全体 (%)
平成20(2008)年	読まない	46.1
	読む(計)	53.4
	1-2冊	36.1
	3-4冊	10.7
	5-6冊	3.3
	7冊以上	3.3
	わからない	0.5
平成25(2013)年	読まない	47.5
	読む(計)	52.3
	1-2冊	34.5
	3-4冊	10.9
	5-6冊	3.4
	7冊以上	3.6
	わからない	0.2



○あなたの読書量は、以前に比べて減っていますか。それとも、増えていますか。



出典：ぎょうせい「国語に関する世論調査」平成20年度、平成25年度

読書の方法としては、電子メディアや図書館の活用なども考えられるため、これらのデータだけを見て読書の機会が減っていると言い切ることはできないが、読書に関する状況に様々な変化が生じてきているとは言えるだろう。本市においても同様の傾向があると推測できる。また、図表1で示されるように書店が減少していることによって、市民が身近な地域で本や雑誌に接することができる機会が失われている現実にも目を向ける必要がある。

こうした状況の下で、平成25年6月、本市においては「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」が制定され、次のような基本理念が示された。

第2条（基本理念）

市は、読書活動が、言葉を学び、感性を磨き、表現力、創造力等を高め、又は豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付ける上で大切なものであることに鑑み、乳幼児期から高齢期まで、市民一人一人が、豊かな文字・活字文化の恵沢を享受することができる環境を整備するよう、全力を挙げて市民の読書活動を推進しなければならない。

ここでは、読書活動が個人の成長発達にとって重要なものであることを再確認するとともに、あらゆる世代の市民が読書に親しむことができるよう市が全力を挙げて取り組むという方向性を示している。

本市においては、本条例の制定・施行と前後して、市立学校への学校司書配置が進められた。平成25年10月から配置が始まり、平成28年4月には、全ての市立小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校への配置が完了している。こうした取組は、同条例の理念を具体化するものであると言える。

なお、市立図書館では、従前から学校図書館ボランティア向けの講座等を実施してきたが、学校司書配置を契機として、配架方法や資料収集についてのアドバイスなど、学校図書館のさらなる充実に向けた支援が行われるようになってきている。

(3) 提言のスタンス

このような動向を踏まえ、本市において、生涯学習の振興としての読書活動を広く推進し、市民の生活をより豊かなものにしていくためには、読書活動を個人の問題として捉えるのみならず、次の視点から考えることが重要となる。

- ①社会との接点を形成するための「居場所」としての読書活動
- ②他者との関係構築を行う「手段」としての読書活動
- ③他者との関係構築による集団での「地域づくり実践活動」としての読書活動

本や図書館は、情報の流通を媒介する「メディア」であるが、ここで言う読書活動とは、既に流通している情報について「市民相互の共有物を産み出し、新たな価値を創出する」ことを目的とするものである。それゆえに、言うなれば地域での市民相互の情報共有が極めて重要となる。こうしたことから、本提言は、基本的には、市民や市民団体に対して、読書活動を推進するための取組を呼びかけるものとして位置付けるとともに、市民の取組を促し、支援するための政策を提示しようとするものである。

言うまでもなく、その前提には、370万市民が共有できる基幹的施設である図書館の充実や、街で気軽に立ち寄ることができる書店の存在などにも関心を持っていたい。

2 現代社会における読書活動の意義

読書は、ひとつには知識・情報を得るための活動であることは説明するまでもないことである。本や雑誌は、かねてから主に知識や情報を伝えるためのツールとして考えられており、人々の認識・思考・価値判断に大きな影響を与えるものであることは、読書の基本的な意義・機能として広く知られている。こうした意義・機能を踏まえ、学校においては読書活動の推進に向けた様々な取組が行われている。

学校における読書活動の中心に学校図書館があることは言うまでもない。学校図書館の環境整備や学校図書館を活用した授業支援等を行うため、全ての市立小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校に学校司書が配置されていることは、本市の大きな特徴と言える。このことにより、学校図書館では蔵書整理、配架の工夫などが進み、児童生徒の読書環境が整ってきた。学校図書館が読書センターとして、また、学習・情報センターとして十分に活用されることは、学校教育の充実に寄与するとともに、本市の読書活動推進に大きな役割を果たすと考えられる。その意味でも、市立図書館との連携や研修などを通じて、学校司書の一層の資質向上に取り組むことが必要である。

このような読書の意義・機能に加えて、読書は、文芸作品を中心にイメージーションを通して共感や感動を与えてくれたり、イメージーションの中で追体験をさせてくれたりするものとしての意義・機能も持っている。

分かりやすく言えば、小説を読むことは、読者が小説に描き出されているイメージの世界を生き、様々な体験をすることである。その中で、喜びや悲しみ、怒りや楽しみ等を感じることで、場合によっては、大きな感動や新しい価値意識を得ることにもなる。これらの感動は、多くの場合、人々の思い出となり、また将来に向けての考え方や感じ方の源泉ともなるものと言える。

こうした読書の持つ、いわば「アート」としての意義・機能は、他者と共有することが可能である。すなわち、自らの読書体験を語り合うことで、人々の間に様々な思い出が呼び起こされ、かつて体験した感動を多くの人と共有することを通じて、「他者とのつながり」が構築され広がっていくことが期待される。

地域における「つながり」の衰退が言われて久しいが、このような読書の「アート」としての意義・機能に着目し、地域に「共感を軸としたつながり」を生み出すことが重要である。

3 読書活動推進のための取組

先に述べたような「つながり」を生み出すためには、自らの読書体験で得た知識や感動を自分自身の内にとどめず、他の人に対して「語り」「伝える」ことが必要である。そのためには、読書体験から得た知識や感動を語り合うための「場」を作ることが求められる。その上で、自身が得られたものを仲間と共有することが重要になる。このような趣旨を実現するため、これまでにいくつかの実践的な取組が行われている。

横浜市立白幡小学校では、校内にいくつかの専用本棚「本の巣箱」を置き、地域の方々や保護者から寄贈された本を児童が自由に読み、メッセージを交換しながら交流していく「しらはた まちライブラリー」をスタートさせている。こうした取組の中で、子どもたちが本に親しむ環境が充実しただけでなく、巣箱の製作や本の読み聞かせなどに地域の方々に参加することで、学校と地域との新たな交流も生まれている。

港北図書館では、市民同士の「話し合い」や「伝え合い」を重視し、「ひよこのおはなし会」「ひろばおはなし会」「親子で楽しむおはなし会」「定例おはなし会」といった様々なタイプの読み聞かせ活動を積極的に実施しており、親子はもちろん、市民相互の交流の機会となっている。また、港北区役所で実施されている生涯学級では、港北図書館の郷土資料を活用して地域の昔話を題材にした紙芝居を制作したことが「港北昔ば

なし紙芝居の会」へと発展し、図書館や区内施設でオリジナルの紙芝居を上演することを通じて地域でのつながりの場が生まれるといった効果も出ている。行政がきっかけの場を提供し、地域の特性を生かした取組へとつながった一例である。

一方、民間の団体や個人の間でも、新たな「つながり」を生み出す活動が見られるようになってきている。「まちライブラリー」（10 ページ参照）は、カフェやギャラリー、オフィス、住宅など様々な場所に本棚を置き、そこにメッセージを添えた本を持ち寄るといった取組である。本を読み終えた人が次々とメッセージや感想を添えていきながら、それらを話題に語り合う場として、全国に広がりを見せ始めている。また、店舗も商品も持たない「エア本屋」として活動している「いか文庫」（11 ページ参照）は、「いか文庫新聞」の発行やSNSを通して本に関する情報発信や交流を行っている。実際に書店などでイベントやフェアを実施することでSNS上のつながりにとどまらないリアルなつながりも生まれている。古本を移動式のカートに載せて販売しながら、本に関する話題をネタに対話や交流を行う「MAME BOOKS」（12 ページ参照）は、店主が自分の好きな本、読んだことのある本だけをセレクトし様々な場所に出店を続け、本を介して多くの出会いが生まれている。さらに、中区にある「アーキシップライブラリー&カフェ」（13 ページ参照）では、本に囲まれた部屋に市民が自由に立ち寄り、本を読んだりお茶を飲んだりしながら交流することができる空間が用意されており、いわゆる「地域の居場所」としても機能している。

これらの取組は、読書活動が「他者とのつながり」を構築する契機となっている一例である。このような取組が、一般に広がりを見せるには、まだ多くの時間がかかるかもしれない。行政としては、こうした市民による「読書活動＝地域づくり活動」をさらに推進するため、先進的な取組の情報を積極的に市民に紹介し、市民が気軽に参加できるような環境づくりを進めることが重要である。

4 「読む・知る」から「語る・つながる」へ

第31期社会教育委員会議では、「居場所」「手段」「地域づくり実践活動」の3つの視点から議論を重ね、読書活動が市民生活をより豊かなものにしていく上で、様々な可能性を持っていることを確認することができた。関係機関、関係者には読書活動の推進に向けた取組の一層の充実を求めたい。

(1) 身近な地域における市民力を生かした読書活動の充実

読書活動は、本来、個人の生活に最も身近な学習活動の一つである。その意味では、市民が身近な地域で読書に親しむことができるような取組の充実が重要である。各区においては、すでに区役所、図書館、学校が連携し地域の実情に応じた様々な取組を行っている（15～21 ページ参照）。引き続き、様々な施設、地域で活動するNPOなどと連携し、その地域の特性や人材を生かした多様な取組が実施されることが望ましい。また、こうしたことの蓄積を踏まえ、NPOや市民グループの自主的な活動につながるような支援の仕組みづくりについて検討することも重要であろう。

(2) 学校と地域が連携した身近な読書活動の「場」づくり

学校は、子どもたちの読書活動推進の場であるとともに、市民にとって最も身近なコミュニティづくりの場とも捉えることができる。子どもたちの読書活動を通じたコミュニティづくりという観点から、例えば、地域に住む人々が学校の中で読み聞かせを行うなど、学校と地域が連携して子どもたちの読書活動推進に取り組んでいくことで、学校と地域、地域住民同士の交流につなげていくことができるだろう。学校が地域の方にとどのように呼びかけ、受け入れていくことができるかが、コミュニティ形成の鍵になると考えられる。

(3) 本を介して人と人がつながるきっかけとなる事業の推進

「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」では、毎月23日を「市民の読書の日」、毎年11月を「読書活動推進月間」と定めている。このような機会を捉え、読書に関わる先進的な取組の紹介や、日ごろ読書になじみのない市民へのPRを目的とした全市域対象の読書イベント（例：「横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム（22～37 ページ参照）」）を開催することは、本を介した交流のきっかけづくりとして有効である。また、市のホームページを活用して、読書活動推進に関わる様々な取組について積極的に情報発信することも重要である。

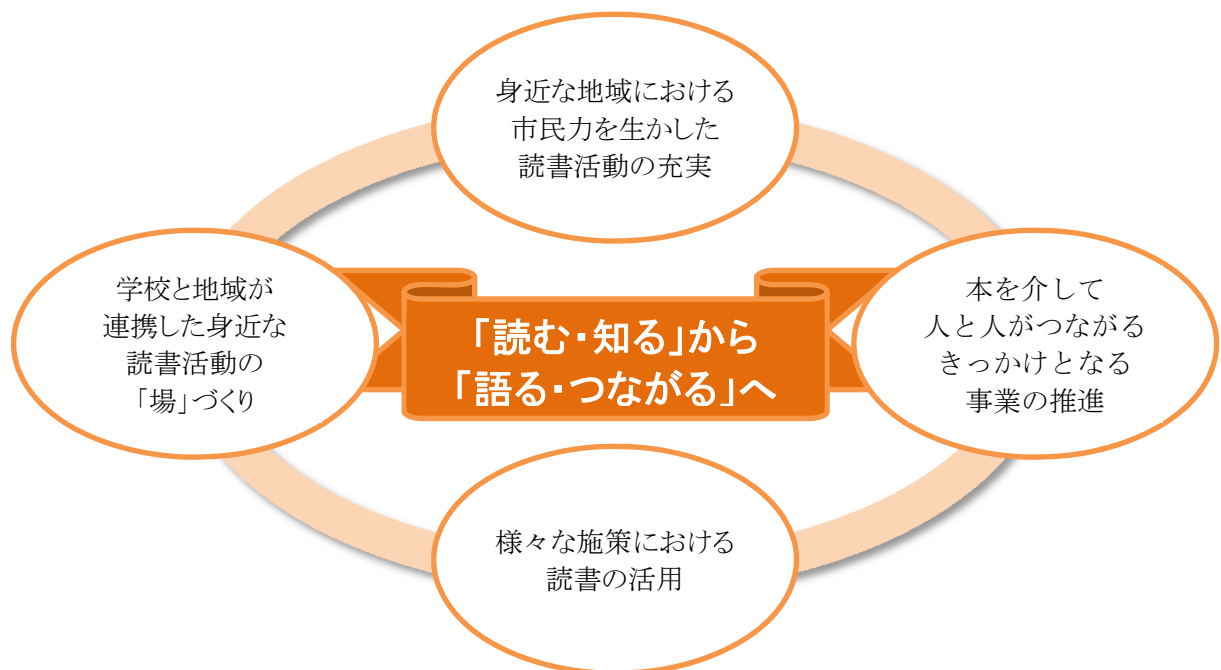
(4) 様々な施策における読書の活用

全市的に読書活動を推進していくという点で、教育委員会から市役所内の様々な部局への積極的なアプローチが求められる。例えば、市が主催するイベントの中で読書

と関連付けた企画を実施することや、市立図書館の企画展示において市の施策に関連するテーマを取り入れるなど、相互に連携することは可能である（16 ページ参照）。

また、前述した「アーキシップライブラリー&カフェ」は、空き店舗だった物件をアーツコミッション・ヨコハマ（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）の紹介でリノベーションした空き家活用の一つの例であるが、市の施策と読書活動のマッチングの可能性を示したものと言えるだろう。

以上例示した様々な施策や課題を実現、実行するには、教育委員会や区役所だけが条例の趣旨に沿った環境の整備に取り組むのではなく、市民生活に関わる様々な部局が、自ら市民の読書活動を支援するための施策を検討、展開する必要があるだろう。



5 おわりに

本を読み、その体験を語り合う場には、いわゆる「地域の居場所」、「人と人との交流の場」としての大きな可能性があり、このような場をさらに充実させていくことが地域のコミュニティづくりに寄与するものと期待できる。その意味で、これまでに述べたような様々な取組の充実、発展とともに、個人が社会と接点を持つ場の一つとして図書館や書店を捉えなおし、その可能性について検討することも必要である。

「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」では、市が全力を挙げて読書推進に取り組むという方向性が示されている。市民力を生かした計画的な読書活動推進のため、本提言を、次期「読書活動推進計画」に反映させるとともに、様々な施策に読書活動が位置付けられ、教育委員会のみならず全ての部局において読書に関連する事業が展開されるなど、総合的な取組が継続して実施されていくことを心より期待したい。

民間における新たな読書活動事例


【事例 1】

1	名称	一般社団法人まちライブラリー
2	代表者	代表理事 磯井 純充 氏 (一般財団法人 森記念財団 普及啓発部長)
3	経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年4月、「まちライブラリー」(※)を提唱 ・同年10月、「ISまちライブラリー」(※)などを設置し始める。 ・2013年4月、「まちライブラリー@大阪府立大学」設立。蔵書ゼロ冊からの図書館として新聞などでも紹介 ・その他にも個人宅、オフィス、カフェ、寺院など様々な場所にまちライブラリーの設立支援をしている。 <p>※1 メッセージを付けた本を持ち寄り、まちのあちこちに小さな図書館(まちライブラリー)をつくり、人と出会おうという活動</p> <p>※2 まちライブラリーの入っているビルの名前がISビル。 ビルの名前は「ISOI」をもじってISビルとなっている。</p>
4	活動を始めたきっかけ、想い	<p>人と触れ合って、いろいろなことを学び合う機会を持ちたい。場所が無くても、本を購入しなくてもみんなで持ち寄ればいい、資金の問題ではないと言う想いで始まった。</p> <p>まちライブラリー提唱当初は「まち塾@まちライブラリー」という名称であり、ソフトとハード両方が必要という思いから名づけられている。「まち塾」は学びあう機会、触発される仕組み、「まちライブラリー」は学びあう場所を意味する。</p>
5	主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージを付けた本を持ち寄り、まちのあちこちに小さな図書館(まちライブラリー)をつくり、人と出会おうという活動 ・まちライブラリーでの各種イベント開催 <p>例：ワークショップ、読み聞かせ、語り合いなど</p>
6	特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・どこでも、誰でも、いつでも始められる。 ・本を通じて人と出会うことにより、各場所で顔の見える関係を生み出そうとしている。


【事例2】

1	名称	いか文庫	
2	代表者	店主 粕川 ゆき 氏	
3	経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年3月、お店も本も持たない「エア本屋」を設立。 ・同年6月「いか文庫新聞第1号」の発行、イベント「イカナイト」の初開催。そういった活動がきっかけとなり、紀伊國屋書店新宿本店で「いか文庫フェア」（毎回異なるタイトルに沿った本をセレクト）を開催する。 ・その後も様々な書店でフェアを開催するほか、POPづくりワークショップなども開催している。 	
4	活動を始めたきっかけ、想い	<p>「自分で本屋をやるなら？」という何気ない会話がきっかけ。 本や本に関わる物事、そして本屋の楽しさをたくさんの方々に知ってもらいたい。そして、「いか文庫」が、普段本を読まない人が、本屋に行くきっかけ、本を読むきっかけになったり、「いか文庫」を通して、人と人が繋がるきっかけになってくれたらという想いで活動している。</p>	
5	主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーペーパー「いか文庫新聞」の発行 ・オリジナルグッズ製作（トートバッグやロゴバッジなど） ・繋がりのある書店でフェアやイベントを開催 ・本と音楽にまつわるライブイベント「本音のフェス」を開催 ・POPづくりワークショップの開催 	
6	特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・「エア本屋」で、売る本もお店もないが、まるでどこかに存在するように毎日ツイッターなどでつぶやいている。 ・フェイスブックやツイッターが情報の発信源。 ・書店員の仲間や音楽関係、アート関係の人達と一緒に、ライブハウスで「リアルな本屋」を開店したり、活動をする中で、その分野が得意な友人や知り合いを巻き込んで、活動内容も広がっている。 	


【事例3】

1	名称	MAME BOOKS	
2	代表者	店主 峰尾 亮平 氏	
3	経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年、「散歩する移動式古書店」としてスタート。 ・2014年5月、横浜妙蓮寺にて週末限定の実店舗（本屋＋カフェ）営業を開始（同年11月閉店）。 ・現在も、音楽関係のイベントを中心に、「移動式古書店」として出店している。今までに200以上の場所に出店。 	
4	活動を始めたきっかけ、思い	<p>元々取り組んでいた音楽関係のイベントに、「自分の好きな本・読んだことのある本」を出店してみたことがきっかけ。「好きな本を誰かと分かち合いたい」という思いから、活動始める。</p> <p>「本を読む」という「体験」を共有すること、本をきっかけとした会話と人と人の繋がりを大切に、活動を続けている。</p>	
5	主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・主に音楽イベントなどにその催しのテーマに沿う本を選んで100冊から200冊程度持ち込み、会話をしながら販売。 ・現在では、知り合いの知り合いなど、色々な方からイベントに呼ばれるようになった。 	
6	特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の好きな本、読んだことのある本」だけをセレクトしている。 ・「会話」をしながら本を販売するという姿勢を貫いている。 ・「本」には人と人とをつなぐパワーがあるという思いから、声のかかったイベントへの出店を続けている。 	

【事例 4】

1	名称	アーキシップライブラリー&カフェ	
2	代表者	株式会社飯田善彦建築工房 建築家 飯田 善彦 氏	
3	経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所拡張に際してアーツコミッション・ヨコハマ（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）より路面店に使える物件を紹介され、2011年12月に吉田町へ移転した ・開店準備期間を経て2012年4月より自身の設計事務所に併設するかたちでアーキシップライブラリー&カフェをオープン。 ・1Fはブックカフェ（平日午前中などは事務所の打合せスペース）、2Fは設計事務所 	
4	活動を始めたきっかけ、想い	<p>学生の頃から買い集めてきた大量の本をどう活用するかなどを考えていた時、あるデザイナーが自分の事務所の一部を提供し、普段使っている本をお客さんに見せているカフェと出会って閃いた。また、東日本大震災を契機に、地域コミュニティとの連携について考えさせられ、自分の設計事務所を活用して地域との連携ができないかと考えた結果、ライブラリー&カフェで実践してみようと考えた。</p>	
5	主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・建築・アート系の書籍、約3500冊の公開 ・ドリンクメニューの提供 （カフェの営業時間） 火～金曜日：13～18時、土曜日：12～18時 ・レクチャー、骨董市、映画上映などの自主企画イベント ・イベントスペースとしての貸出 	
6	特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・1階のブックカフェ部分の天井は高く、また通りに面している部分は全面ガラス張りのため開放感にあふれている。 ・イベントスペースは、建築関連に関わらず、映画上映、骨董市、ワークショップ、ギャラリー、コンサートなどを開催しており、様々な人にひらかれた場所になることを目指している。 	

【事例5】

1	名称	横浜読書会・KURIBOOKS	
2	代表者	主催者 佐藤 久理 氏	
3	経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年2月 第1回読書会をアーキシップライブラリー&カフェにて開催。その後ほぼ月に1回ペースで継続しており、現在までに18回開催している。 ・2015年5月～ 横浜ベイクォーターにあるカフェで「朝の横浜読書会」を毎月1回開催 ・2015年6月～ カフェレストランで「女子の横浜読書会」をスタート 	
4	活動を始めたきっかけ、思い	<p>「本を通じて気楽に楽しく参加できる交流会」として本好きの人たちと良書を伝えあう楽しい場としてスタート。</p> <p>プレゼンの優越を競ったり、議論したりするような場ではなく、本を通して、参加者と「新たな気付き」を共有できる場をつくりたいとの思いから始めた。</p>	
5	主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回1つ課題を設け、それに関する本を1人1冊以上持ち寄り、参加者同士が紹介しあう。「その本を読むきっかけ」、「心に響いた箇所」など自由に発表をする。 ・募集定員は毎回10名前後の規模で、会員制ではなく、毎回ホームページによる申込制としている。 	
6	特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・「知的好奇心をくすぐる面白い本と出会える場」をコンセプトに活動を続ける。 ・初めての人でも参加しやすく、たまたまカフェで読書していた人も飛び入り参加するほどアットホームな雰囲気、学生・社会人・自営業・主婦など毎回さまざまな方が参加できる読書会である。 	

地域における読書活動事例（平成 27 年度）

【事例 1】

区名	神奈川県（神奈川県図書館）
事業名	幸ヶ谷小学校ビブリオバトル
実施日	11月25日（水）
場所	横浜市幸ヶ谷小学校 体育館
参加者数	212人
内容・特徴	<p>本を使ったコミュニケーションゲーム「ビブリオバトル」の区内学校への普及を図るため、区役所と図書館が支援して、まずは1校に取り組んでもらった。小学校図書館研究会の幹事校での開催であり、研究会等を通じてビブリオバトル普及が期待できる。</p> <p>事前に、4～5年生担任全員に体験を含むガイダンス、4～5年生全員にガイダンスと先生による模擬バトル観覧、を実施。その後クラス毎に予選を行い、当日クラス代表6人の決選を行った。子ども達も楽しんで取り組んでいた。</p>
当日の様子	<div data-bbox="402 1182 868 1534" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="432 1559 831 1635" data-label="Caption"> <p>ビブリオバトル決戦の様子</p> </div> <div data-bbox="890 1559 1369 1912" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="991 1933 1289 1998" data-label="Caption"> <p>関連展示</p> </div>

【事例2】

<p>区名</p>	<p>西、港南、旭、南、港北、緑、青葉、都筑区（各区の図書館）</p>
<p>事業名</p>	<p>生きもののつながりキャンペーン 2015</p>
<p>実施日</p>	<p>5月から10月まで</p>
<p>場所</p>	<p>各図書館</p>
<p>参加者数</p>	<p>392人</p>
<p>内容・特徴</p>	<p>図書館は、環境創造局が実施した「生きもののつながりキャンペーン2015」と連動し、複数の館で「生きもののつながり」をテーマにした展示、おはなし会、講演会、上映会等を実施し、多面的に情報提供を行った。これにより、生物多様性や横浜市の環境問題への取組について市民に広く知らせ、図書館資料の利用にも結び付けることができた。</p>
<p>当日の様子</p>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>企画展示「知ろう！伝えよう！ 生きもののつながり」</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>おはなし会</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>講演会「絶滅していく動物を救え」</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>「いきものがたり」上映会</p> </div> </div>

【事例3】

区名	港北区（港北図書館）
事業名	開館 35 周年記念講演会「まちライブラリーの可能性」～本でつなぐ、人をつなぐ～
実施日	8月27日（木）
場所	菊名地区センター レクリエーションホール
参加者数	88人
内容・特徴	<p>開館 35 周年に、本を持ち寄って作る小さな図書館「まちライブラリー」の提唱者、磯井純充氏を講師に招き、講演会を開催。氏は、本を媒体に人をつなぎ新しいコミュニティづくりを試みている。本を介した人のつながりの場に関する情報を発信し、今後の区内の読書活動の発展へつなげる機会とした。</p> <p>参加者からは、「まちライブラリーを地域でやってみたい」「身近な所で本が手に取れることは、とてもうれしい」等の感想があった。</p>
当日の様子	<div data-bbox="391 1048 999 1438" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="496 1451 794 1496" data-label="Caption"> <p>講演会全景</p> </div> <div data-bbox="874 1451 1439 1877" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1031 1883 1329 1944" data-label="Caption"> <p>講師 磯井純充氏</p> </div>

【事例 4】

区名	青葉区（山内図書館）
事業名	おはなしごっこ012
実施日	4月23日、5月28日、6月25日、7月23日、8月27日、9月17日
場所	山内図書館 集会室
参加者数	延 133 人
内容・特徴	<p>0.1.2歳児とその保護者を対象とした6回連続講座。</p> <p>地域で活動する語り手を育てる団体を講師とし、乳幼児と保護者が読み聞かせ、手遊び、わらべうたに触れ、親同士の交流も図れる場をつくった。</p> <p>参加者（保護者）が語りによる親子の触れ合いを楽しむだけでなく、語り手のボランティア育成につなげる機会とした。</p>
当日の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>親子遊び</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>絵本選び</p> </div> </div>

【その他の事例】

(「横浜市の図書館 2016」より抜粋)

1 中央図書館の主な事業

内容(タイトル)・講師	開催日	会場	参加人数
横濱にあった離宮を訪ねる	6/6	馬車道駅・桜木町駅	18人
い・にし・え散歩(共催:NPO法人横浜シティガイド協会)			
西区の女学校とその周辺	10/24	平沼橋駅・平沼高校・水天宮平沼神社・上原教会	8人
見えない見えにくい障害を知る～講演会&ヒューマンライブラリー～	12/5	5階第一会議室	71人
中脇初枝講演会「みんないい子～昔話と読書～」(共催:西区地域振興課)	12/9	西公会堂	153人
東日本大震災関連企画展示「震災から5年～あの頃と今と・地震に備える・あの日を振り返る・自然を知る、暮らしを守る・復興を語りつぐ～」	3/8～4/4	地下1階ホール、1、3～5階展示コーナー	-
第39回「水素が拓く再生可能エネルギーの未来」[ゲスト:光島重徳氏(横浜国立大学 大学院工学研究院/先端科学高等研究院 教授)](共催:横浜市温暖化対策統括本部)	10/24		41人

2 地域図書館の主な事業

館名	内容(タイトル)・講師	開催日	参加人数
鶴見	つるみっこ絵本広場協力スタッフ養成講座[講師:6/2渡辺順子氏、6/30鶴見図書館司書](共催:鶴見区福祉保健センター)	6/2、6/30	延67人
	夏休み科学遊びの会(対象:①小学1～3年生②小学4～6年生)	7/23	47人
	鶴見大学連携事業(夏休みつるたんつるぼんおはなし会、小学生向け古文書講座「昔の本にさわるう!」、つるたんつるぼんクリスマス会)(共催:鶴見大学)	8/12、8/21、12/13	計81人
	つるみ読書講演会「非常識な読書のすすめ」第一部:講演会[講師:清水克衛氏]第二部:ビブリオバトル(共催:鶴見区役所)	11/23	269人
	高齢者向け読み聞かせ講座「お年寄り絵本でちよっという時間」[講師:山花郁子氏](共催:鶴見区役所)	3/23	67人
神奈川	業務体験「夏休み一日図書館員」(対象:①小学3、4年生 ②小学5、6年生)	8/6、8/7	18人
	幸ヶ谷小学校ビブリオバトル(学校と連携し、4・5年生全員が参加)	11/25	212人
	大人のためのおはなし会(共催:読みきかせボランティア ホンノハシ)	11/29	14人
	神奈川区読書活動推進講演会「歴史小説の存在意義と新潮流」[講師:伊東潤氏]	1/24	182人
	講演会「古本屋のおやじが語る、古本よもやま話」[講師:剣重豊氏(神奈川古書組合)](共催:神奈川区役所地域振興課、神奈川古書組合)	3/6	27人
中	横浜大空襲から70年～写真と新聞記事で振り返る被害と復興～	5/22～6/8	-
	第5回本牧モック亭開演!～子どものための落語の会～[講師:絵書家筆之輔氏]	8/20	65人
	赤ちゃんと楽しむわらべうたと絵本[講師:賀谷恭子氏(こどりの会)]	9/2、9/9	延34人
	大人が楽しむおはなし会[講師:平塚ミヨ氏(くにたちおはなしの会)](共催:こどりの会)	11/17	36人
	三溪園今昔～古写真で巡る昔の三溪園～[講師:吉川利一氏(三溪園保勝会)]	11/21	22人
南	オトナのための図書館バックヤードツアー	5/9、11/14	18人
	作ってみよう紙芝居(対象:小学生～大人)[講師:共催:かみしばい いっぱ]	7/30、8/6	15人
	業務体験「夏休み図書館たんけん隊」(対象:小学校3年生～6年生)	7/23	20人
	夏の夜のこわいおはなしの会(対象:小学生)	7/31	30人
	講演会「本とともに歩む人生」[講師:堀内まゆみ氏(岩波書店マーケティング部)]	12/13	33人

館名	内容(タイトル)・講師	開催日	参加人数	
港南	書架整理ボランティア講座	6/24	19人	
	業務体験「図書館の仕事にチャレンジしよう」	小学生(小学3年生～6年生)	7/28	8人
		中学生	7/30	2人
	夏休み！いろいろなおもしろい本しょうかいします	8/5(延3回)	68人	
	講演会「暮らしを守る！司法書士によるよくわかる老後の備え講座」〔講師：岩屋口智栄氏(神奈川県司法書士会横浜西支部)〕	10/7	20人	
写真パネル展「こうなんいまむかし」	1/14～1/24	—		
保土ヶ谷	読み聞かせのための絵本の選び方講座(保護者向け)	4/25	10人	
	業務体験「一日図書館員」(対象：小学校1年から4年生)	8/4～8/7	56人	
	みんなでストップ温暖化！～北極のシロクマをたすけよう～ (共催：横浜市温暖化対策統括本部、ほどがや市民活動センター アワーズ)	8/20	30人	
	大人のための図書館体験(対象：中学生以上)	11/15	5人	
	ちくちくシアターpresents エプロンシアター® (協力：保土ヶ谷区地域振興課生涯学習支援係、ちくちくシアター)	3/3	280人	
旭	展示「ズーラシア全園オープンおめでとう！」(協力：ズーラシア)	4/21～5/25	—	
	旭の生き生き人間登場「戦争体験を聴く会」〔講師：片岡正氏、山室一正氏〕	8/15	31人	
	旭区読み聞かせボランティア交流会～旭区のこどもたちに、楽しい本の世界を届けよう！	9/29	11人	
	ボランティア講座「やってみよう！赤ちゃん向けおはなし会」〔講演会：石川道子氏、講習会：阪口道子氏〕(共催：白根地域ケアプラザ)	10/4、10/15、10/29	77人	
	歴史発見！秋の相州道を歩く〔講師：旭ガイドボランティアの会〕	10/31	23人	
磯子	業務体験「図書館の仕事体験」(対象：①小学1～3年生、②4～6年生、③中学生)	①7/23、②7/30、③8/6	28人	
	学校図書館ボランティアサポート講座 学校図書館本の修理講座 〔講師：磯子図書館ボランティア「本の修理・いそご」〕	初級	10/20、10/27	延36人
		中級A	11/10、11/17	延30人
		中級B	12/1、12/8	延18人
	ぬいぐるみといっしょのおはなし会&ぬいぐるみのおとまり会 (協力：よこはまおはなしの会、いそご図書館サポーターズクラブほびっと)	11/7～11/8	23人	
	磯子区読書活動推進講演会 柳田邦男氏講演会 「家読(うちどく)は大人を変え子どもを変える 一日30分・ノースマホタイム」 (共催：磯子区役所地域振興課)	11/23	340人	
よくわかる 遺言書の書き方講座〔講師：小竹一臣氏〕(協力：神奈川県行政書士会磯子金沢支部)	11/27	23人		
金沢	業務体験「一日図書館員」(対象：①小学1・2年生②小学3・4年生③小学5・6年生) 業務体験「夏休み司書体験」(対象：④中・高校生)	①7/24②7/30 ③7/31④8/4	延32人	
	かなざわ大人のライブラリートゥア―(共催：横浜市立大学 関東学院大学)	①11/20 ②11/27 ③12/4	延40人	
	金沢区読書活動推進事業「①講演会 子どもたちと本を結ぶ～地域での絵本の読み聞かせ～」〔講師：石川道子氏〕/「②講演会 山崎洋子と横浜ラビリンズ」〔講師：山崎洋子氏〕	①/2/25 ②3/21	延137人	
	「深海のナヅに挑む JAMSTEC海洋研究開発機構 ①展示 ②映像上映会 ③水圧実験装置での実験を見てみよう！」	①7/22～8/23 ②7/28・7/29 ③8/4	延90人	
	はまっ子読書の日記念「特別おはなし会～いろいろな国のことばでおはなし会～と絵本の展示」(共催：金沢国際交流ラウンジ 関東学院大学)	11/8	37人	
港北	展示「港北区のシンボル～大倉山の30年展」(共催：大倉精神文化研究所、港北図書館友の会)	4/2～4/30	—	
	図書修理ボランティア講習会	6/4・7/16 9/29・10/20	延47人	
	「日吉台地下壕」講演会〔講師：長谷川崇氏、佐藤宗達氏、小山信雄氏(日吉台地下壕保存の会)〕(共催：日吉台地下壕保存の会)	8/9	75人	
	相続・遺言・成年後見セミナー〔講師：所博之氏〕(共催：神奈川県司法書士会横浜北支部)	1/17	29人	
	展示「戦国の城、魅力再発見」(協力：パートナー産業株式会社)	1/16～1/25	—	

館名	内容(タイトル)・講師	開催日	参加人数
緑	業務体験「図書館探検隊」(対象:小学3年生～6年生)	8/19	22人
	講演会 緑区読書活動推進事業「子どもも大人も絵本で楽しむ～中村柁子の絵本講座」	9/30	66人
	展示「ぼくの本・わたしの本 大紹介展」(対象:幼児～中学生)	10/11～11/30	—
	講座「絵本読み聞かせボランティア講座」[講師:石川道子氏](共催:白山地区センター)	2/10、2/17	65人
	講演会「ドキドキ わくわく 動物のふしぎをみつけよう!」[講師:よこはま動物園ズーラシア飼育員・緑区役所生活衛生課職員](共催:緑区生活衛生課、よこはま動物園ズーラシア)	3/29	53人
山内	おはなしごっこ012(対象:0～2歳児と保護者)(共催:NPO語り手たちの会“おはなしごっこ012”チームよこはま)	4/23ほか 全6回	延140人
	やまうちとしよかん「夏のおはなし祭り」2015	8/4	延1076人
	業務体験「小学生夏休み一日図書館員」(対象:①小学1・2年生②小学3・4年生)	8/6 延2回	30人
	青葉区六大学連携事業 山内ライブラリーカレッジ「イギリス美術に親しむ」幕末維新期の横浜」(共催:横浜美術大学、國學院大學、青葉区区政推進課)	10/3、11/14	延50人
	青葉区読書活動推進事業 林望講演会「リンボウ先生と愉しむ平家物語」(共催:青葉区役所)	1/23	160人
都筑	パパ向け絵本講座	7/4、11/15	延46人
	歩いて知る都筑の魅力 ～講座と散策体験～ [講師:大橋政信氏(都筑をガイドする会会長)]	12/12	28人
	ボランティア大交流会 (学校・おはなし)	12/8、1/19	延69人
	本の福袋	1/5～1/14	—
	未来につなげよう! 昔遊び・わらべうた遊び講座 [講師:田村洋子氏(NPO日本わらべうた協会理事長、東京おもちゃ美術館学芸員)]	2/28	35人
戸塚	読み聞かせ活動入門講座	5/28、6/4	延59人
	かんたんランチづくり&調べ学習の達人になる!(対象:小学3～6年生)/めざせ!水博士!!戸塚ポンプ場見学&図書館で大研究(対象:小学3・4年生)	7/23、7/30	24人
	もう一度働きたい女性のための就活準備講座	7/2	16人
	おとなのための図書館の仕事体験～少し差がつく図書館の使い方～	7/9	11人
	戸塚区読み聞かせ活動ステップアップ講座[講師:佐藤涼子氏](共催:戸塚区役所地域振興課)	2/2、2/9	延52人
栄	業務体験「きみも一日図書館員!」(対象:①小学校1～3年生②小学校4～6年生)	①7/29、7/30、8/5 ②8/6	65人
	図書館たんけんて、「調べ学習マスター」になろう!(対象:小学3・4年生)	8/11、8/20、8/21	9人
	タッチーくんの読書貯金通帳をつくろう!	8/7	15人
	お年寄りに読み聞かせしている方、大集合!～高齢者向け読み聞かせボランティア交流会	10/21	16人
	栄区制30周年記念事業歴史講座「縄文時代の謎の「顔」—栄区公田町出土の土製品—」[講師:千葉毅氏]	11/29	29人
泉	親子で楽しむわらべうた 前期・後期 各5回[講師:阪口道子氏]	5/15ほか 全10回	延190人
	おとなのためのおはなし会(協力:おはなしのいずみの会)	7/14、11/10	各30人
	業務体験「夏休み図書館探検隊」(対象:①小学1・2年生②小学3～6年生)	8/19、8/20	延23人
	はじめての相続・遺言講座[講師:江口弘氏、鈴木憲明氏](共催:神奈川県司法書士会)	10/4	14人
	スポットライトいずみ講演会「定式幕の舞台裏」[講師:馬場克己氏(いずみ歌舞伎保存会会長)]	12/12	17人
瀬谷	親子で一緒にひよこの応急手当教室(共催:講師:中瀬谷消防署 おはなし会:瀬谷図書館司書)	6/7	45人
	図書館でボランティア!中学生・高校生 書架整理、読み聞かせ(おはなし会)	7/24～8/31	35人
	読書活動推進講演会「言葉・読書・生きる力～ネット社会に負けない生き方を～」[講師:柳田邦男氏](共催:瀬谷区役所)	11/29	422人
	学校図書館ボランティア図書修理講座 初級編・中級編	11/18、12/9、2/10、2/17	延49人
	大人が楽しむおはなし会 [朗読・絵本:司書、ボランティア]	3/16	29人

※各館の所在区は基本的に館名のとおり。中央、山内については次のとおり。

中央図書館：西区、山内図書館：青葉区

平成 27 年度横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム記録

「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」施行後 2 年目となる 27 年度は、「市民の読書活動推進月間」を捉え、昨年に引き続き、『読む・知る・つながる～読書との出会い～』をテーマに、「横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム」（イベントタイトル「横浜読書百貨展」）を開催した。

26 年度は、初めての開催であったことから、広く読書に親しみ楽しんでもらえるよう様々なプログラムを企画し、予想を上回る多くの方（延べ 3,500 人）にご参加いただくことができた。

27 年度は、テーマに基づいて読書活動推進をさらに進めていくため、「本」をきっかけにした人と人との交流を広げていくよう、民間の個人レベルで取り組まれている読書活動にも着目し、新たなプログラムを取り入れて実施した結果、昨年を上回る大勢の方（延べ 4,000 人）のご参加をいただくことができた。

＜27 年度事業の概要＞

1 日 時 平成 27 年 11 月 1 日（日）10:30～16:00

2 会 場 新都市ホール、センタープラザ

3 参加人数 延べ 4,000 人

（対象者：一般市民、読書活動団体、読書施設の方々、学校図書館関係者、図書館関係者、出版社等民間事業者など）

4 プログラム

◆新都市ホール ※下線：今年度新規プログラム

（1）特設ステージ

午前：「シンドバッド 空とぶ姫と秘密の島」上映会、講演会、公開記念感想文・イラストコンクール優秀作品の授賞式（特別企画）

午後：基調講演「本で人をつなぐ まちライブラリーのつくりかた」、
トークセッション「本をきっかけにした人と人とのつながりづくりを考える」

（2）ワークショップエリア等

- ・新たな読書活動の紹介（いか文庫、MAMEBOOKS、まちライブラリー）
- ・思い出古本市、好きな本の話をお聞かせいませんか？コーナー
- ・ビブリオバトル講座、POP 作り講座、いか文庫のブックカバー作り講座、

（3）展示コーナー

- ・「読書活動団体・学校司書」活動紹介
- ・あの名作この本から「日本アニメーション株式会社40周年記念パネル」及び関連図書の展示、コンクール優秀作品紹介（特別企画）

◆センタープラザ

おはなしの広場（おはなし会、おすすめ絵本の展示）

＜協力：いか文庫、株式会社 紀伊國屋書店、日本アニメーション株式会社、一般社団法人まちライブラリー、MAMEBOOKS、株式会社 有隣堂＞

特設ステージ

日本アニメーション株式会社 40周年記念作品「シンドバッド 空とぶ姫と秘密の島」 上映会、講演会、感想文・イラストコンクール授賞式

■映画「シンドバッド 空とぶ姫と秘密の島」上映会

3部作の1作目、日本アニメーション株式会社 40周年記念作品「シンドバッド 空とぶ姫と秘密の島」を上映しました。



©プロジェクト シンドバッド

■講演会「1冊の本から映画ができるまで」

映画プロデューサーの井上孝史氏から、「1冊の本から映画ができるまで」と題し、お話をいただきました。



■映画「シンドバッド 空とぶ姫と秘密の島」公開記念感想文・イラストコンクール授賞式

感想文・イラストコンクール優秀作品の授賞式を開催しました。作品は、会場内で展示されました。

横浜市（教育委員会）では、「横浜市民の読書活動推進に関する条例」の基本理念に基づき、言葉を学び、感性を磨き、表現力や想像力を高め、豊かなものするため、読書活動を推進しています。

今回の日本アニメーション株式会社とのタイアップは、共創フロント（横浜市の公民連携に関する民間提案を受け付ける窓口）を通じて、同社から提案があったものであり、映画を通して、子どもたちが著名な古典文学に触れ、興味を持つきっかけとなることを願い、実現したものです。

まちライブラリー提唱者・磯井純充氏による基調講演、トークセッション

■基調講演「本で人をつなぐ まちライブラリーのつくりかた」

まちライブラリーとは、まちのカフェやギャラリー、オフィスや住宅、お寺や病院などの一角に共通の本棚を置き、そこにメッセージ付の「本」を持ち寄り、交換しながら「人」の縁をつむいでいく活動です。この活動について、提唱者の磯井純充氏にご講演いただきました。

講師：まちライブラリー提唱者・森記念財団部長・大阪府立大学客員研究員 磯井 純充 氏



■トークセッション

「本をきっかけにした人と人とのつながりづくりを考える」と題したトークセッションが行われました。

コーディネーター：国立教育政策研究所生涯学習政策研究部長 笹井 宏益 氏

パネリスト：まちライブラリー提唱者・森記念財団部長・大阪府立大学客員研究員 磯井 純充 氏

いか文庫店主 粕川 ゆき 氏

MAMEBOOKS店主 峰尾 亮平 氏



パネリスト紹介

まちライブラリー提唱者・森記念財団部長・大阪府立大学客員研究員 磯井 純充 氏

森ビル株式会社創業者の森泰吉郎氏が始めた教育事業の事務局を務め、大学とのサテライトキャンパスのプロジェクト、六本木ヒルズでの会員制図書館などの事業を手掛ける。2011年にまちライブラリーをビルの一室で始め、2015年10月現在で、全国230か所にまで広がっている。

いか文庫店主 粕川 ゆき 氏

いか文庫というエア本屋の店主として活動。エア本屋とはエアギター（実際は持っていないギターを持っているように演奏をすること）という物の本屋バージョンのことを指し、実店舗、本の在庫を持たず、本屋として活動している。

MAMEBOOKS店主 峰尾 亮平 氏

2010年より個人でMAMEBOOKSという移動式の本屋の活動を開始。イベント、公共スペースに本と本棚を持ち込んで設置し、読書との出会いの場を提供する活動をしている。本棚には店主が読んだ好きな本をだけを並べることを大切にしている。

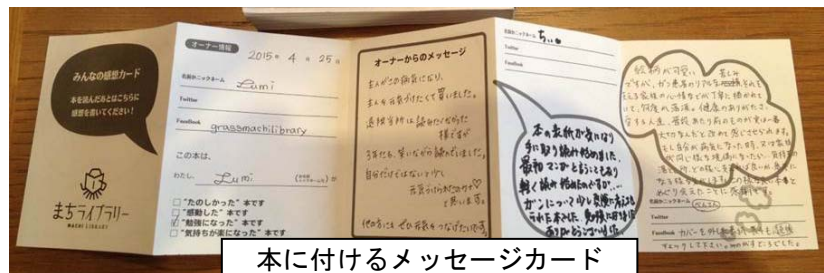
活動紹介 まちライブラリー

《活動の特徴》

本をみんなで持ち寄って、その本でそこに小さな学び合いの場を作ろうと考えたんです。持ってきてもらう時に、ひと言メッセージをできれば残してもらいましょうということをお願いしています。身近な人の声を聞いていくのがまちライブラリーだと思うので、そういう会を小さな形で、まちライブラリーの中でやってはどうでしょうかと私は訴えています。私はそれを“学縁”と呼んでいるんですけど、そういう縁ができると、街の中もおもしろくなってくるのではないかなと考えたんです。



まちライブラリーを最初に始めたのが、昔父親が大阪に建てたビルの一室でした。最初にみんなで本箱を作ったんです。ところが中々これだけでは人が来ないんですよ。もっと実利的に胃袋から攻めようということになってですね、「本とバルの日」というものを決めて、本を持ってくるけれども、食事もしめる日を作ろうということにしました。参加費の代わりに本を各自1冊、できたら寄贈して下さいと言って持ってきてもらい、その本をそれぞれ紹介をします。そ



本に付けるメッセージカード

の後で、版画に凝っている奥さんが版画の話と実演をしてくれたり、ジャズを大学時代にやっていた人が教えてくれたりといろんな学びの会をやっています。最後に食事を楽しんでというサイクルを4年ちょっとやっています。そうしたら結果的に今4,400冊くらいの本が最初の空っぽのところに集まっています。

本当の家族じゃないのに、「あの人が転勤するんだってね、送別会をしよう」、「新しい人が来たから歓迎会しよう」というようなことが、ゆるやかな図書館（まちライブラリー）を通じた家族、図書館家族がゆるやかに地域の中に生まれつつあるかなという風に思っています。

《活動を始めた経緯》

森ビル創業者の森泰吉郎さんという方が晩年にアークヒルズというビルで、教育事業を始めました。私はそこで事務局を手伝って小さな塾をやっておりました。その後、色々大学とサテライトキャンパスのプロジェクトをやったり、最後は六本木ヒルズというところで会員制図書館をして、うまく成長したと自分では思いました。

その中で、私が一番失ったなという物が、顔の見える関係性なんです。それぞれ違う人がそれぞれの思いで来て、ここで何か学びたいと思っているのに、その人の声を本当に聞けなくなっちゃったなというのが、まちライブラリーを組む一番の理由なんです。

活動紹介 いか文庫

《活動の特徴》

エア本屋と名乗って活動をしています。さもギターを持っているかのように演奏をする、エアギターという物の本屋バージョンで、実はお店も、本の在庫も持っていないんですけれども本屋として活動しています。本屋と言い張って、ツイッター上で毎朝「開店しました」と、どこに開店しているのかも分からないけれども、そのつぶやきをし続けています。



一番最初にいか文庫新聞というフリーペーパー作りを始めました。本にまつわること、いか文庫なので、イカにまつわることとかを取り上げて現在も作っています。

エアだけれどリアルも大切にしている、リアル本屋さんでフェアを期間限定でいろんなところでやっています。リアル本屋さんの棚を一つ借りて、そこに私たちが選んだ本を、本屋さんに仕入れていただいて、並べて、ポップを付けています。今までで一番大きなイベントは、ライブフェスイベントです。私が音楽も好きだということと、私の周りの友達が、本が好きで音楽が好きだと言う人がすごく多かったので、組み合わせたらもっと楽しいのではないかと、妄想を膨らませた結果、開催することができました。

私はリアルに書店員の仕事もしながら、いか文庫をやっています。新しい、古いに関わらず、色々な人に読んでほしい、見てほしいと思う本を、イカの力と面白いことをやりたいという好奇心を絡み合わせて、色んな人、本を読まない人にも伝えたいというのが一番の柱になっています。面白そうって思う事を、お客さんと一緒に私たちも楽しもうという考えで動いているので、本当にやりたいことをやっていて、それをうまく伝えられるようにと考えています。

《活動を始めた経緯》

いか文庫って変わった名前だなと皆さん思われるかと思うんですけど、名前の由来は、私がイカの形の iPhone ケースを使っていたというそれだけの理由で、思いつきで始めました。いか文庫新聞を最初作った時、ちょっと恥ずかしかったので誰にも渡せなかったんですよ。でもちょっと勇気を出して、リアルな本屋さんに渡したらその場で「あんたなんて面白いことやってんの」って言ってくださって、「うちの本屋の棚を貸してあげるから、一緒にフェアやろうよ」というのが最初の活動のきっかけだったんですね。



活動紹介 MAMEBOOKS

《活動の特徴》

MAMEBOOKSは移動式の古本屋です。イベント、公共スペースに本と本棚を持ち込んで設置し、本屋さんや図書館に行くような目的ではない人と本との出会いを提供するという活動をしています。

来ていただいたお客さんに対して、僕が自分のその本をご説明して、おすすめします。

僕とそのお客さんの間で、「この本で読んだことありますか」だったり、「この作家さんだったらこっちの方が好きだな」という本の会話をする事ができます。私がない場合でも、例えばそこに訪れた買い物途中のご夫婦、カップル、友人同士が「この本読んだことある？」というような会話が生まれるんです。もしかしたらご友人同士は本の会話を普段しないかもしれないと思うんですね。だけでもそこにたまたま行った場所に本棚があることで、本についての会話をする事が出来る。誰かの好きな本や誰かが読んでいる本を知れるという事はすごく面白いことだと思うんですね。

《活動を始めた経緯》

読書というのは、僕は体験だと思っています。読書の体験、あるいは僕が読んだ好きな本を誰かと共有する、これをとても大事にしています。同じ本を読んだことがある、同じ好きな本があるというのは、1つの体験と一緒に体験をしているということだと思っています。例えば僕が富士山に登ったことがある、磯井さんも富士山に登ったことがある、あ、なんだ富士山に登ったことがあるんだったら、だったら話せることがあるねって形でそういった体験を共有するっていう事ではないかなと思っています。そういう形で本も誰かと共有して楽しむ事が出来るはずだという風に考えてこの活動をしています。

本は自分で読みに、捕まえに行かないといけない、読まないといけない。すごく面倒な体験だと思うんですけど、だからこそ価値があるじゃないかなと考えています。



MAMEBOOKS出店の様子



ラグマットで読書

《これまでの取り組みを通じて分かってきたこと、成果について》

【粕川氏】

楽しいって伝染するんだなということがすごいわかってきました。私が楽しいと思うことをいろんな人に伝えて良いんだって気付いて、発信をしたり、そういう活動をしたっていったら、今度は周りの友達が、「自分はこれできるんだけど、何か一緒にやらない」とか、そういう巻き込まれてくれる人が楽しいでつながるんだなというのがすごくわかりました。

【磯井氏】

だいたいの方は、組織に属したり、いろんな仕事をしていったりすると、何か役に立つこと、組織の目標に沿う事をやらなきゃいけないとそう考えがちだと思うんです。それも大事なことなんですけれど、自分の本心として、心の中からやりたいことをやれなくなってきたのが一番大きな問題になってきているのではないかなと思うんですね。個人で自分が本心からやりたいと思うことを積み上げていけば、誰でも賛同者が出てくるんだという話をいか文庫さんは話されたと思います。私の活動も正にそういう形で、自分の孤独を解消するためにやったことが今につながってきたという事だと思うんですね。

僕が僕のそばにいてほしい人はどんな人だろうと考えると、私は私の声を聴いてくれる人なんじゃないかなと思うんです。声を聴く力が現代社会では弱まっているので、こういう時こそその声を聴く、聴きやすい媒介物と言ったら言葉は悪いですけど、本は比較的人の心の窓を開けてくれるので、本を使ってコミュニケーションしていくのは良いんじゃないかなと思っています。

【峰尾氏】

本を読まない人が多いと言われてはいますが、色々ところで読書に関連するイベントも開催されていますし、私自身の活動も5年も続いています。それはやはり、皆さんが読書、本との出会い、さらに本を通して人を知るという事をどこかで求めている。私の本屋に来て「好きな本の話が出来ると嬉しいなあ」と言ってくれる人がたくさんいるんですね。本棚とラグマットがあるだけで子どもたちはすごく楽しそうに本を読んでいたって、親と一緒に本を読んでいたってする光景が自然とできるんですね。私がイベントの外で出店していたりすると、本と本棚があることで通りかかった人もイベントの中にはいつてきてくれることもあるんですね。これはどうしてそうなるのかは私も中々わからないところですが、やっぱり本と本棚には人を吸いつける何かがあるのではないかなと思います。

《全体を通して》

【笹井氏】

3人の方に共通していることは、好きな本なんですね。嫌いな本じゃないんですよ。嫌いな本をけなすために集まるのではなくて、好きな本を持ち寄って「素敵な本でしょ」という話をする所がとても大事だという風に思っているんですね。好きな本の話をするところに人と繋がる可能性がすごくあるのではないかと考えています。



本の世界ってある種のファンタジー、夢、冒険とかいろんなものが入っているんですけど、人間にとってとても大事だけれど形になってないがゆえに、日常の中ですごく押し流されているところがあって、本から得たイマジネーションをある種場でみんなでも共有していくことの大切さ、それが人や地域をどんなに元気にしていくかということを考えて聞いていました。

本を読むことの楽しさと、地域を作っていく可能性、自分の人生、社会をもっと豊かにしていく可能性を持ったものであるという事が、今日のお3人の発表を聞いてご理解いただけたし、色々考えさせられることもあったのではないかと思います。

新たな読書活動の取組紹介

まちライブラリー

「どこでも、誰でも、いつでも始められる。」
メッセージをつけた本を持ち寄り、まちのあちこちに小さな図書館（まちライブラリー）をつくり、人と出会うきっかけを作っている取組を紹介しました。



Little Free Library(本の巣箱)の取組も紹介しました。



MAMEBOOKS



なんでもない場所を「本のある空間」に変えてしまう「散歩する移動式古本屋」さん。

イベント出店を中心に、いつもと少し違った「読書体験」を提案しています。「好きな本ってなあに?」、そんな会話がなにより好きです。催しごとに選び持ち込む本は、すべて「店主が読んだことのある好きな本」。

そんなMAMEBOOKSが、会場内にやってきました。



いか文庫



「お店も商品も持たない”エア本屋”」。リアル書店での「いか文庫フェア」や、本と”何か”を組み合わせたイベントを開催しています。今回は、本、本屋、いかに関する記事を掲載した「いか文庫新聞」を、一挙に展示しました。一度に全号見られたのは、これが初めてです。



思い出古本市

思い出古本市

「思い出」のある本を持参し、一日だけの古本屋の店主になって、お客様と本をきっかけに会話を楽しんでいただく古本市を開催しました。7組の出店がありました。

「横浜読書会KURIBOOKS」

「日曜日の図書館 南回帰線」

「うらら屋」

「ひな菊の古本」

「ミツバチフラワー」

「ソロン書店」

「ことくに書店」

好きな本の話聞かせてくれませんか？

会場にいる方の前で、自分のお気に入りの本の話をして4つのテーマから選んで紹介するコーナー。聞いている方も飛び入り参加可能なアットホームな場で、お気に入りの本の話をしたり、聞いたりしながら、「本を共有する体験」をしました。

【テーマ】

〈1〉子どもの時に好きだった本

〈2〉人生の転機となった本

〈3〉元気にさせてくれた本

〈4〉その他自由に！

コーディネーター：

MAMEBOOKS 店主 峰尾 亮平 氏



象の鼻テラスからやってきた「まるイロカーペット」で絵本を読む親子

ワークショップエリア

簡単！楽しく！

ビブリオバトル体験講座(初級編)

気軽にチャレンジ！はじめてのビブリオバトル体験講座を開催しました。お気に入りの本を持参し、ビブリオバトルの説明を聞いた後、実際にグループに分かれてビブリオバトルにチャレンジしました。

講師：株式会社 有隣堂 小石 浩貴 氏



一緒にやってみよう！

ビブリオバトル体験講座(中級編)

運用ノウハウ伝授！ビブリオバトル中級講座を開催しました。お気に入りの本を持参し、ビブリオバトルの説明を聞いた後、実際にグループに分かれてビブリオバトルにチャレンジしました。実際に企画運営するためのノウハウも学びました。

講師：株式会社 有隣堂 市川 紀子 氏



ビブリオバトル世話人サミット～ビブリオバトルを通して考える読書イベントの意義～

ビブリオバトル運用者・読書イベント企画運用者向けのトークセッションを開催しました。ビブリオバトルの説明を聞いた後、ビブリオバトルのプロたちによるデモンストレーションバトルを開催しました。その後、ビブリオバトル主宰・経験豊富な登壇者によるパネルディスカッションを開催しました。

コーディネーター：

有隣堂ビブリオバトルプロジェクトチーム 市川 紀子 氏

パネリスト：

トーハン図書館事業部 石井 真一 氏

宅配書店サンタポスト主宰、ビブリオバトル普及委員会理事 粕谷 亮美 氏

東京創元社編集部 小浜 徹也 氏

紀伊國屋書店ビブリオバトル推進チーム 瀬部 貴行 氏



POP作りワークショップ

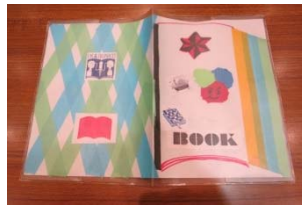
書店員による、実践的なPOPカード（品名・価格・特徴・推薦文等を端的に記した広告用カード）作成ワークショップを開催しました。お気に入りの本を持参して、人の心をつかむキャッチコピーの作り方、POPならではの表現など、POPの説明を受けてから、思い思いのPOPを作成しました。

講師：株式会社 有隣堂 梅原 潤一 氏



いか文庫のブックカバー作りワークショップ

いか文庫スタッフが教える「イカしたブックカバー」作りワークショップを開催しました。小学生から大人まで、たくさんの人が挑戦していました。



展示コーナー

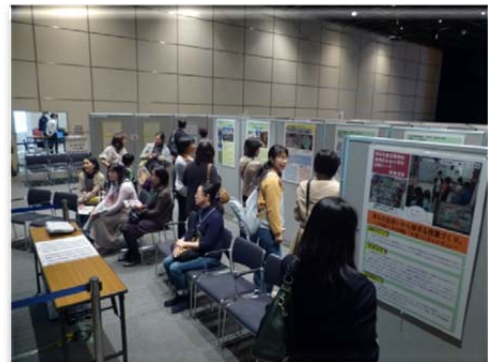
「読書活動団体」活動紹介

横浜で活動する様々な読書活動団体を、パネルで紹介しました。チラシやパンフレットの配布も行いました。



「学校司書」活動紹介

平成25年度から市立小・中・特別支援学校への配置を開始した学校司書の活動を、パネルとスライドで紹介しました。



あの名作、この本から～日本アニメーション株式会社40周年記念パネル展～

今年で40周年を迎えた日本アニメーション株式会社。数々の名作の中から、「赤毛のアン」「あらいぐまラスカル」「母をたずねて三千里」「フランダースの犬」の複製原画パネルと、作品に関連した図書を展示し、ブックリスト「あの名作、この本から」を配布しました。



映画「シンドバッド 空とぶ姫と秘密の島」公開記念感想文・イラストコンクール受賞作品展

コンクールの優秀作品（感想文部門3作品、イラスト部門4作品）を展示しました。あわせてアラビアン・ナイトに関連した図書の展示とブックリスト「よんでみようアラビアン・ナイト」を配布しました。



おはなしの広場

おすすめ絵本の展示

図書館のおすすめする絵本・紙芝居の展示をしました。実際に手にとって見る子どもたちがたくさんいました。



おはなし会

手作り大型絵本の読み聞かせや、ボランティアの方によるおはなし会を行いました。「よこはまライブラリーフレンド&かながわこどもひろば」「横浜市立みなと総合高等学校 企画部」「つどおう JiJiBaBa 隊」「紙芝居文化推進協議会」



○第31期横浜市社会教育委員会議審議経過

回	開催年月日	審議項目	議事録 確認者
第1回	平成26年 10月31日	議長、副議長の選出 第31期横浜市社会教育委員会議の趣旨について	秋山委員 奥山委員
第2回	平成27年 3月12日	読書活動の先進的取組事例ヒアリング いか文庫 店主 粕川 ゆき 氏 MAMEBOOKS 店主 峰尾 亮平 氏	佐原委員 高井委員
第3回	平成27年 5月29日	読書活動の先進的取組事例ヒアリング 一般社団法人まちライブラリー 代表理事 磯井 純充 氏	竹本副議長 中村委員
第4回	平成27年 8月7日	読書活動の先進的取組事例ヒアリング アーキシップライブラリー&カフェ 建築家 飯田 善彦 氏 横浜読書会・KURIBOOKS 主催者 佐藤 久理 氏	永池委員 依田委員
第5回	平成27年 11月20日	第31期横浜市教育委員会議の提言作成に向けた 意見交換	秋山委員 奥山委員
第6回	平成28年 3月11日	第31期横浜市教育委員会議の提言作成に向けた 意見交換	高井委員 竹本副議長
第7回 (最終回)	平成28年 8月8日	第31期横浜市教育委員会議の提言作成に向けた 意見交換	永池委員 依田委員

○社会教育法（抜粋）

（昭和24年6月10日法律第207号）
（最終改正：平成27年6月24日法律第46号）

（市町村の教育委員会の事務）

第五条 市（特別区を含む。以下同じ。）町村の教育委員会は、社会教育に関し、当該地方の必要に応じ、予算の範囲内において、次の事務を行う。

二 社会教育委員の委嘱に関すること。

（審議会等への諮問）

第十三条 国又は地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、国にあつては文部科学大臣が審議会等（国家行政組織法（昭和二十三年法律第百二十号）第八条に規定する機関をいう。第五十一条第三項において同じ。）で政令で定めるものの、地方公共団体にあつては教育委員会が社会教育委員の会議（社会教育委員が置かれていない場合には、条例で定めるところにより社会教育に係る補助金の交付に関する事項を調査審議する審議会その他の合議制の機関）の意見を聴いて行わなければならない。

（社会教育委員の設置）

第十五条 都道府県及び市町村に社会教育委員を置くことができる。

2 社会教育委員は、教育委員会が委嘱する。

（社会教育委員の職務）

第十七条 社会教育委員は、社会教育に関し教育委員会に助言するため、次の職務を行う。

一 社会教育に関する諸計画を立案すること。

二 定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること。

三 前二号の職務を行うために必要な研究調査を行うこと。

2 社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。

3 市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。

（社会教育委員の委嘱の基準等）

第十八条 社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期その他社会教育委員に関し必要な事項は、当該地方公共団体の条例で定める。この場合において、社会教育委員の委嘱の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

○横浜市社会教育委員条例

制 定 昭和25年8月4日条例第30号
最近改正 平成25年12月25日条例第90号

市会の議決を経て、〔横浜市社会教育委員の設置並びに費用弁償に関する条例〕を次のように定める。

横浜市社会教育委員条例

(設置)

第1条 社会教育法(昭和24年法律第207号)第15条の規定に基づき、本市に社会教育委員(以下委員という。)を置く。

(委嘱の基準)

第2条 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験のある者
- (4) 前3号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

(委員の定数)

第3条 委員の定数は10人とする。

(任期その他)

第4条 委員の任期は2年とする。但し、1回に限り重任を妨げない。

2 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 教育委員会は、特別の事情があるときは、任期中でも委員を解嘱することができる。

(費用弁償)

第5条 委員が職務のため市外に出張したときは、費用弁償として旅費を支給する。

2 前項の旅費は、横浜市旅費条例(昭和23年10月横浜市条例第73号)中2号の者に支給する額により、同条例を準用して支給する。

3 委員が職務を行うために必要な研究調査及びその他の費用は、予算の範囲内においてこれを弁償する。

(委任)

第6条 この条例施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

1 この条例は、公布の日から施行する。

2 この条例施行後最初に委嘱される委員の任期は、第3条の規定にかかわらず、昭和27年3月31日までとする。

付 則 (昭和30年3月条例第3号)抄

1 この条例の施行期日は、市長が定める。

(昭和30年5月規則第26号により同年同月21日から施行)

附 則 (平成25年12月条例第90号)

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。

○横浜市社会教育委員会議規則

制 定 昭和25年8月4日教委規則第6号
最近改正 平成15年10月15日教委規則第16号

横浜市社会教育委員会議規則を次のように定める。

横浜市社会教育委員会議規則

(目的)

第1条 横浜市社会教育委員（以下「委員」という。）の会議（以下会議という。）については、この規則の定めるところによる。

(議長及び副議長)

第2条 会議に、議長及び副議長それぞれ一人を置く。

2 議長及び副議長は、委員の互選により定める。

3 議長及び副議長の任期は、委員の任期とする。

4 副議長は、議長を補佐し、議長に事故があるとき、又は議長が欠けたときは、その職務を行う。

(会議)

第3条 会議は、必要に応じ議長が招集し、これを主宰する。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(関係者の出席)

第4条 議長は、議案その他に関し必要あるときは、関係者の出席を求めて、その意見又は説明を聴くことができる。

第5条 教育委員会事務局職員は、会議に出席して、意見を述べることができる。

(庶務)

第6条 会議に必要な庶務は、教育委員会事務局において行う。

(委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別にこれを定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成6年1月教委規則第3号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成11年10月教委規則第10号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成15年10月教委規則第16号）

この規則は、公布の日から施行する。

第31期横浜市社会教育委員名簿

(任期/平成26年10月15日～平成28年10月14日)

氏 名	役 職 名	選出区分
あきやま よしお 秋山 孝夫	株式会社 紀伊國屋書店 店売総本部 神奈川地区店売部長 兼 横浜店長	教育委員会が必要と認めた者
おくやま ちづこ 奥山 千鶴子	特定非営利活動法人びーのびーの理事長	家庭教育関係者
◎ きさい ひろみ 笹井 宏益	国立教育政策研究所生涯学習政策研究部長	学識経験者
さほら かおり 佐原 香織	千代田区立九段生涯学習館副館長	社会教育関係者
たかい ろくろう 高井 祿郎	公益財団法人大倉精神文化研究所理事長	教育委員会が必要と認めた者
○ たけもと やすよ 竹本 靖代	あおば学校支援ネットワーク代表	社会教育関係者
なかむら かおり 中村 香	玉川大学通信教育部教育学部教育学科准教授	学識経験者
ながいけ けいこ 永池 啓子	横浜市立白幡小学校校長	学校教育関係者
みぞうえ ちえこ 溝上 智恵子	筑波大学図書館情報メディア専攻長 情報メディア社会分野教授	学識経験者
よだ かずこ 依田 和子	よこはまライブラリーフレンド代表	社会教育関係者

※1 ◎は議長、○は副議長

※2 職名は委嘱時点、掲載は50音順、敬称略

本が人をつなぐまち ヨコハマ
—読書によるコミュニティづくりの可能性について—

平成 28 年 10 月
第 31 期横浜市社会教育委員会議

編集・発行 横浜市教育委員会事務局総務部生涯学習文化財課

〒231-0017 横浜市中区港町 1-1

TEL : 045 (671) 3282 FAX : 045 (224) 5863

ホームページ：<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/shingikai/shakaikyoiku/>

紙へのリサイクル可